

保健管理センター

1 理念・目的

慶應義塾大学保健管理センターは、健康の保持増進のための教育・研究、慶應義塾の塾生・教職員の健康管理、感染症管理、環境の衛生管理を行っている。また、日吉、三田、湘南藤沢、矢上、芝共立キャンパスおよび志木高等学校の産業医を担当し、日吉、三田、湘南藤沢、矢上の慶應義塾診療所における診療業務も行っている。

わが国では、文部科学省が管轄している学校保健として、小学校、中学校、高等学校、大学があり、卒業後は厚生労働省が管轄している職域保健や老人保健がある。しかし、学校保健の中をつながりや、職域でをつながりには課題も多く、同一人を継続的にフォローし、健康状態の観察や継続した健康管理を行うことが難しい現状がある。最近の健康増進法はこの欠陥を是正しようとする一つの方策ではあるがなかなか難しい。

慶應義塾の一貫教育と卒業後の連合三田会組織の充実、そして平成 24 (2012) 年 8 月から大学病院に開設される予防医療センター（主に人間ドックを行う）などは、同一人の成長に伴う継続的な健康状態の把握および健康管理を可能にする、世界でも稀有なしっかりした枠組みである。しかし、従来は一貫教育校においても、小学校から中学校、中学校から高等学校などに健康診断データを引き継ぐことは、ごく一部のケースに限られていた。平成 23 (2011) 年度に倫理委員会に申請し、承認され、平成 24 (2012) 年度からいよいよ一貫教育校内でのデータをつなげることが可能となった。しかし、まだ卒業後のデータとつなげるところまでには至っておらず、今後の大きな課題である。これが実現すれば、小児期から老齢に至るまでの経過が明らかになり、いわゆる生活習慣病の自然経過がわかり、その予防についての新知見が世界に貢献できる研究となることが期待される。

これらの理念・目的に関しては、保健管理センターのホームページに公開され、塾生・教職員のほか、一般の方々にも公開されている。また、その適切性に関しては、毎月 1 回開催される業務連絡会や幹事会で検証され、毎年 1 回開催される運営委員会で最終決定されている。

2 教育研究組織

前記、センターの理念・目的に沿って、教育および研究組織を構築している。教育面では、大学講義として、学部生を対象に 2 つの設置講座（現代社会と医学 および ）を開設している。また、体育研究所設置講座である「健康と運動の科学」を体育研究所の近藤教授とセンター教員が共同でオムニバス形式で実施している。これらの講義を通して、大学生に正しい健康知識を与えている。前記センターでの 2 つの設置講座は、当初日吉を中心に行っていたが、他の教科との関係か履修者数が少なかったため、現在は三田で実施している。三田での講義の方が着実に履修者数が増えており、我々の理念・目的を達成させるためにも今後は三田での講義実施を中心に考えている。研究面では、センター専任教員の専門性が色々なため、保健師もまじえて全体として行っているものと、個々の専門領域に関して行っているものがある。いずれにしる、その内容はセンターの理念・目的に合致したものがほとんどで、月 1 回行われるセンター研究会で意見交換している。具体的な研

究内容としては、塾生・教職員および保護者の方々の協力を得て、若年者・中高年者の生活習慣病や感染症の予防などの身体的問題に関する研究と、精神の健康に関する研究を主として行っている。その結果は、塾生や教職員の健康管理にフィードバックして活用している。主な発表の場としては、全国大学保健管理研究集会、日本学校保健学会、日本内科学会、日本小児保健学会などである。また、研究内容はできるだけ著書、英文論文、和文論文としてまとめるようにし、すべては「保健管理センター年報」に記載されている。また、年1回「慶應保健研究」を発行し、最新の研究内容なども掲載している。また、その内容はセンターのホームページから教職員のほか、一般の方々も閲覧できるようにしている。

3 教員・教員組織

慶應義塾は非常にユニークな組織であり、小学校から大学、大学院までの児童、生徒、学生を対象としている。慶應義塾では各キャンパスが分散しているため、保健管理センターの人員は、現在内科出身の医師が9人、小児科出身の医師が5人、精神神経科出身の医師が1人で、教育、研究、診療活動を行っている。この規模が適正であるかどうかは議論の余地があるが、保健管理センターと他部門の教員との連携にもやや問題がある。大学は学部の教授会により運営されており、それに参加して発言する機会が今の所ないための弊害がある。たとえば、大学生の定期健康診断は、学事と連携していないため、当然授業と重なり、学生には受診に関し不便な思いをさせている。このような事は、他部門の教員との連携がうまく取れれば、ある程度解決できる問題と思われる。

4 教育内容・方法・成果

保健管理センターでは、大学講義として、学部生を対象に2つの設置講座（現代社会と医学 および ）を開設している。月曜日4時限は、平成22（2010）年度までは南里教授をコーディネーターとした「渡航医学」、平成23（2011）年度からは河邊教授をコーディネーターとした「心身の健康維持のために」について、センター教員によるオムニバス形式での講義を展開している。水曜日4時限は、齊藤教授をコーディネーターとして「現代社会と生活習慣病」についての講義を行っている。さらに、火曜日4時限には、体育研究所設置講座である「健康と運動の科学」を体育研究所の近藤教授とセンター教員が共同でオムニバス形式で実施している。

センターでの2つの設置講座の内容としては、センターの理念・目的に沿うよう考えられているが、必ずしも固定した内容にせず、その時々で問題になっているホットな話題についてもふれるようにしている。最近では、平成23（2011）年の東日本大震災後のメンタル面の問題や、ボランティアで出かける学生に対する注意点などについてもふれるようにしている。また、厚生労働省（雇用均等・児童家庭局・母子保健課）から依頼のあった「大学生の体づくりに関連する資料」についても平成23（2011）年度の授業から取り入れている。その他、教育としては、通信教育課程の夏期スクーリングでの講義、通年でのレポート添削も行っている。また、文化祭での食品提供予定者への衛生講習会の実施、ホームページ上での健康情報シリーズでの教育などを行っている。

6 学生支援

保健管理センターでは、学生の健康保持・増進のために主に以下の事業を行っている。まず、毎年春に学校安全衛生法に基づき健康診断を実施している。また、実施後は要管理者のフォローアップも行っている。その他、有機溶剤取扱者健康診断、電離放射線取扱者健康診断、特定化学物質取扱者健康診断などの特殊健康診断を行っている。さらに、キャンパスの衛生環境を維持するために、各キャンパスにおいて教室および食堂の環境調査を実施している。実施後は、食堂管理責任者と直接面談し、改善点などを指導している。

7 教育研究等環境

保健管理センターの施設は狭く、教育面では学生とディスカッションする場所もきちんと確保されていない。また、研究に関しても、個々の教員専用の十分なスペースが確保されておらず、非常に劣悪な研究環境である。教育面では、体育研究所と一部連携しながら行っている講義などもあるが、研究面では他部門とほとんど連携がないのが実状である。最近、日吉リサーチポートフォリオなどで少し他学部教員との交流ができつつあるがまだ不十分である。

センター内で行われる研究については、以前はセンター内での業務連絡会でその適切性について検討してきたが、日吉キャンパスに倫理委員会が設置されてからは、新たな研究に関しては倫理委員会に申請し、承認を得ている。

8 社会連携・社会貢献

センターには、外務省の巡回医師団に参加し、医療レベルに問題のあるアフリカ諸国、中東諸国などに出張し、邦人の医療相談を行っている教員がいる。また、テレビ等に出演し、専門の疾患に関し最新情報を提供している教員もいる。また、最近では Web サイトで専門領域の情報提供を担当している教員もいる。これらは、センターでの教育研究の成果を適切に社会に還元していることになっている。

10 内部質保証

前述したように、センターではその活動を毎年発行している「保健管理センター年報」にまとめ、研究に関しては「慶應保健研究」にまとめ公表している。また、毎月開催している業務連絡会、幹事会で日々の諸活動について点検・評価しており、最終的にはセンター業務に関連している委員の方々に出席していただき、年 1 回開催される運営委員会で点検・評価している。